

## IV 保険持株会社及びその子会社等の主要な業務

### 1 直近の事業年度における事業の概況

当年度における我が国の経済は、復興需要に支えられた内需の回復に加え、各種経済対策、金融政策の効果もあり、回復の兆しが見られました。海外景気の底堅さや為替相場の影響により輸出が下げ止まり、設備投資は非製造業を中心に堅調に推移しました。公共投資及び住宅投資は震災復興関連への投資を背景に増加を続けています。雇用・所得環境は引き続き厳しい状況が続いているものの、個人消費は底堅い推移を見せ、労働需給面においても改善の傾向が見られます。金融市況においては、長引く欧州情勢不安を背景に、長期金利は引き続き低水準で推移しています。今後の我が国経済の見通しについては、米国・中国を中心として、海外経済の減速傾向に歯止めの兆候が見られることや、国内経済対策の下支えもあり、緩やかな回復傾向が期待されます。当社子会社が事業を行う保険業界においては、低金利環境を背景として、金融庁が12年ぶりに標準利率の引き下げを決定しました。これを受け、国内生命保険会社の多くが、保険料改定の検討を行いました。

このような状況下において、当社は保険持株会社として、次のような取り組みを行いました。

(保険持株会社としての基本的な取り組み)

当社は、保険子会社の経営管理及び当該業務に付帯する業務を行うことを事業目的に、日本国内初の保険持株会社として、2000年3月に金融再生委員会（現金融庁）の認可を受け、同年3月に設立されました。

この事業目的遂行のため、当社は、経営会議の諮問機関として、リスク・マネジメント・サブコミティ、アセット・ライアビリティ・マネジメント・サブコミティ、コンプライアンス・アドバイザー・サブコミティを設置し、経営会議の審議の前に、当該サブコミティにおいて、子会社の経営上のリスクを的確に把握するとともに全体の収益・リスク管理、資本政策の策定、経営資源の適正な配分、ご契約者保護の検証を行う等、保険持株会社としての経営管理を行っています。

更なる経営の効率化とガバナンス体制の強化に向け、2010年7月より委員会設置会社に移行し、執行役を任命するとともに、独立した3つの委員会（指名委員会、監査委員会、報酬委員会）を設置しました。これにより、経営の監督と執行の分離をより明確化し、業務執行の権限を代表執行役・執行役に大幅に委譲し、経営の意思決定と業務執行を迅速なものとしています。同時に、社外取締役が過半数を占める独立した3つの委員会を設置することにより、経営の監督機能を強化するとともに業務執行の透明性を高めています。

保険持株会社として子会社管理機能をより一層高めるとともに、アクサジャパングループとしての価値を最大限に高めるべく、シナジーの促進を図っています。

(生命保険事業での主な取り組み)

生命保険事業に関しては、当社グループの最大の収益基盤であることから、収益の継続的な拡大を目指しています。

主な取り組みについては、以下のとおりです。

当社の生命保険子会社であるアクサ生命保険株式会社は、お客さまの多様なニーズに対応するため、最先端の医療保障商品とサービスの提供に努めています。2012年4月より、限定告知型終身医療保険『アクサの「一生保障」の医療保険 OK メディカル』（正式名称：限定告知型終身医療保険（無解約払いもどし金型））、2013年2月からは『アクサの「企業経営」サポートシリーズ 就業不能保障プラン』（正式名称：生活障害保障型定期保険）の販売を開始しました。併せて、お客さまの最適な治療の選択をサポートする付帯サービス「アクサのメディカルアシスタンスサービス」に、2012年7月より「糖尿病サポートサービス」及び「メンタルサポートサービス」を追加することにより、メディカルアシスタンスサービスの強化を行いました。

また、ネクステリア生命保険株式会社は2012年7月に当社の完全子会社となりました。同社のビジネスはAXAグループの戦略的方向性に沿ったものであり、今後成長が期待される分野です。同社をアクサダイレクト生命保険株式会社に社名変更し、日本市場におけるAXAグループのより一層のパフォーマンス強化を目指します。

(損害保険事業での主な取り組み)

損害保険事業に関しては、収益の一層の伸展を目指し、当社の完全子会社であるアクサ損害保険株式会社の収益基盤の強化を図っています。

(資金面の主な動きと子会社に対する資本増強の取り組み)

- ・2012年6月8日、普通株式1株当たり2,420円、総額189億円の株主配当を実施いたしました。
- ・2012年12月20日、普通株式1株当たり1,400円、総額109億円の株主配当を実施いたしました。
- ・2012年9月24日、アクサダイレクト生命保険株式会社の新株発行による普通株式86,956株を19億円で取得いたしました。

当社の生命保険子会社のアクサ生命保険株式会社は、スタンダード・アンド・プアーズ・レーティング・ジャパン株式会社（S&P）の保険財務力格付けで「A+（アウトルック：安定的）」とする格付けを得ております。

なお、当該格付けは2013年6月28日時点での評価であり、将来的には変化する可能性があります。また、格付けは格付機関の意見であり、保険金支払等についての保証を行うものではありません。

当連結会計年度における主要業績については、次のとおりであります。

保有契約高については、個人保険は13兆5,452億円（前年比101.4%）、個人年金保険（年金支払開始前契約の年金支払開始時の年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金の合計（ただし、変額個人年金保険の年金支払開始前契約については、基本保険金額（既払込保険料相当額）を計上）は1兆8,661億円（前年比102.9%）、団体保険は4兆1,613億円（前年比91.9%）、団体年金保険（責任準備金）は5,898億円（前年比95.4%）となっております。資産については4,538億円増加し、6兆5,261億円（前年比107.5%）となっております。そのうち主なものは、有価証券5兆9,062億円（前年比113.7%）、無形固定資産1,601億円（前年比91.1%）、貸付金1,474億円（前年比100.7%）となっております。

また、収支状況を見ると、収入面では、保険料等収入7,025億円（前年比100.8%）、資産運用収益2,520億円（前年比185.8%）等となっており、これらによる経常収益は9,575億円（前年比113.3%）となっております。一方、支出面では、保険金等支払金5,026億円（前年比97.0%）、責任準備金等繰入額2,467億円（前年比189.2%）、事業費1,265億円（前年比102.6%）、資産運用費用256億円（前年比99.3%）等となっており、これらによる経常費用は9,125億円（前年比113.0%）となっております。その結果、経常利益は450億円（前年比118.9%）、当期純利益は241億円（前年比190.2%）、包括利益は1,078億円（前年比327.1%）となりました。

## 2 直近5連結会計年度における主要な業務の状況を示す指標

(単位：百万円)

項目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
経常収益	912,788	969,425	847,713	845,220	957,525
経常利益又は経常損失(△)	△ 171,562	64,697	91,942	37,850	45,007
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 165,256	36,166	78,630	12,724	24,197
包括利益	—	—	31,495	32,962	107,809
純資産額	290,611	412,160	393,573	374,199	451,918
総資産額	4,949,245	5,676,011	5,913,843	6,072,285	6,526,160
ソルベンシー・マージン比率	—	—	—	559.2%	674.7%